



最初がカンジン！～初乳給与のススメ～

子牛は、病原菌やウイルスに対し、ほぼ無防備な状態で生まれてきます。初乳の適切な給与は、子牛が病原菌等に対抗するための、最も重要なステップです。正しいタイミングで必要な量の初乳を給与し、健康な子牛を育てましょう！

1 初期発育を左右する初乳給与

- ・ 新生子牛は、自分で免疫を獲得するまでの約1か月間、丸腰の状態
- ・ 初乳給与により、病原菌等に対抗するための免疫グロブリン (Ig) を母牛から受け取るほか、栄養素や抗菌物質を取り込むことで初期発育を手助けする

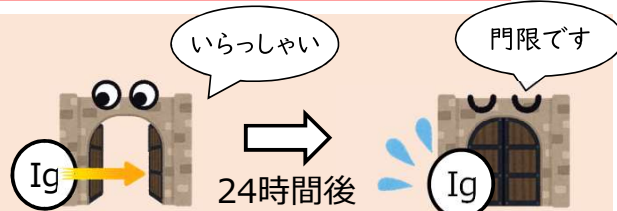
$$\text{初乳中Ig濃度} \times \text{初乳給与量} \times \text{子牛の吸収率} = \text{Ig移行量}$$

⇒ Ig移行量が子牛の健康に直結する！

◆ 吸収率を上げる初乳給与のポイント

① 分娩後6時間以内に初乳を給与

でないと・・・子牛の腸がIgを吸収できなくなる



② 敷料や母牛の乳頭は清潔に

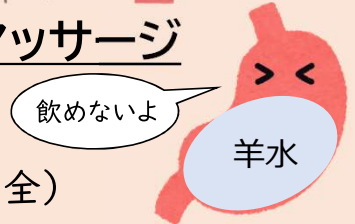
でないと・・・病原菌を取り込んだりIgの吸収が悪くなる



③ 難産等で衰弱している場合は乾いたタオルで温めマッサージ

でないと・・・内臓が動かず、胃に羊水が溜まったまま

無理に飲ませても **うすまる** (吸収率低下)、**ふくらむ** (呼吸不全)



2 母牛へのワクチン接種で子牛に抵抗力を！

- ・ 母牛の初乳中には、過去に感染した病原菌やウイルスに対応するIg (武器) が含まれる
- ・ 加えて、母牛にワクチン接種することで、呼吸器病や下痢症に対抗するための武器を作り、初乳を介して子牛に渡すことができる

※ 具体的なワクチンプログラムについては、獣医師に相談ください

農場 (非ワクチン) 由来 (例)

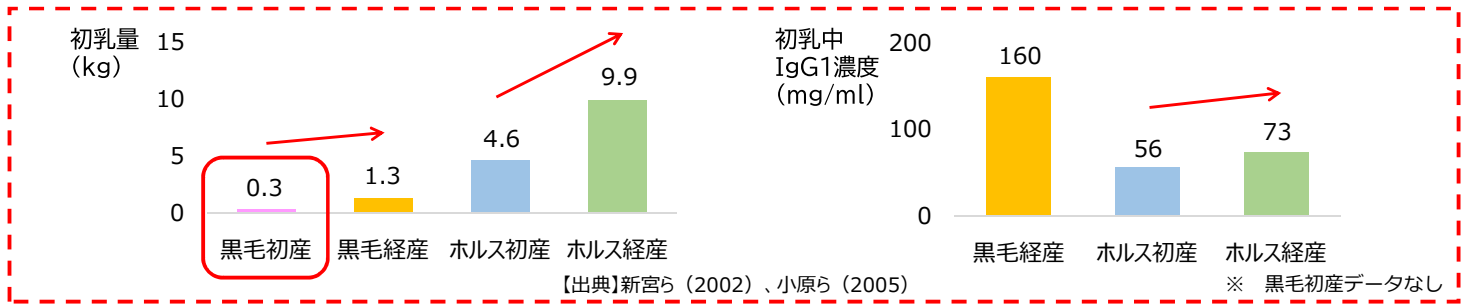


ワクチン由来 (例)



3 その初乳、本当に足りていますか？

- ・ 黒毛和種の初産の母牛について、特に初乳量が低い
- ・ 初乳中のIg濃度は、一般的に初産では経産より低いとされている（個体差も大きい）



母牛の初乳だけでは、**子牛が必要なIg量に満たない場合あり**

⇒ **特に初産の子牛には初乳製剤の利用を推奨！**

◆ 初乳製剤給与のポイント

- ① 母牛の初乳とあわせ **Ig量 200g** を目指す
→ 80g入り初乳製剤なら2袋、出来れば3袋
- ② **濃度と温度が重要**
→ 説明書の規定量・温度を守る
特に**温度は 低ければ溶け残り**
高ければIgが機能を失う



《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



○ 分娩後の子牛の処置(初乳給与)について

今後の発育を左右する

- ・ 分娩後6時間以内に初乳を飲ませる！
- ・ 分娩房と母牛の乳頭は清潔に！
- ・ 1～2産目は子牛が吸う前に**初乳製剤2袋を目安に給与！**

図1 初乳中免疫グロブリン濃度

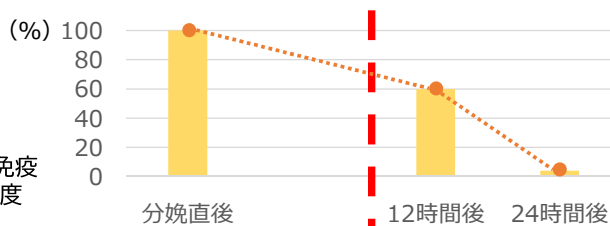
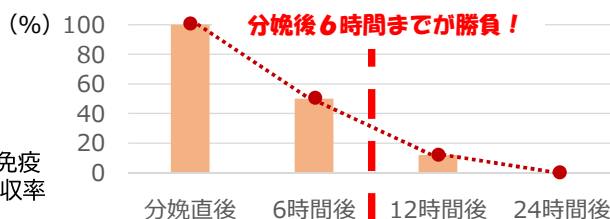


図2 子牛の免疫グロブリン吸収率



2-4-6でチェック!

- ☑ 2時間後に**起立欲**があるか
- ☑ 4時間後に**哺乳欲**があるか
- ☑ 6時間以内に**体重の5%以上**を飲めるか
(30kgの子牛なら1.5L以上)